

## 第5学年 家庭科学習指導案

日時 令和5年6月16日(金)

子ども 5年本宮学級 30名

指導者 瀬川幸恵

### I 題材名

楽しい家庭生活をめざして  
ソーイングはじめの一步  
(わたしたちの家庭科5・6 開隆堂)

### <授業の見どころ>

子どもたちが、グループでの話し合いや小物製作の過程を見直す活動を通して、作品に必要な要素を取捨選択しながら、自分の思いに適した解決方法を選びます。

### II 題材の指導構想

#### 1 題材について

- 子どもたちは、5年時最初に行ったガイダンスで、家庭科は、自分のためだけでなく、家族の一員としてできることを増やしていくために学ぶということを確認した。また、前題材では、自分の生活経験を生かしたり、新たに獲得した知識や技能を活用したりして課題を解決する学習過程を理解し、自分の力で生活をよりよいものにしていくよさを感じ始めている。しかし、家庭科の学習において新しい力を身に付ける活動は楽しいものの、実生活の中から問題を見だし、自分の生活をよりよくするための学習課題を設定したり、目指す姿に向かって学習計画を立てたり実践を見直したりするまでには至っていない。

これまでの学びの中で、道具や材料の特徴を生かすことで自分の作りたいものを形にできるよさや刃物などは安全に気を付けて正しく扱うことを理解している。さらに、7月に行われる「林間学校」に向けて友達と仲を深め、楽しい活動にしていきたいという思いをもって準備を進めており、それらの活動には、家庭科の調理や裁縫の学習が生きることも理解している。これらの学びの文脈を生かし、今後は、「なぜそのようにするのか」「よりよくするには何が必要なのか」という問いをもったり「できるようになった自分」を実感しながら手縫いの知識・技能身に付けたり、用途や思いに合った縫い方や製作を計画・評価・改善する力を身に付けさせていく必要がある。

- 本題材は、「B衣食住の生活」(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」のAの(ア)、(イ)及びイと、(4)「衣服の着用と手入れ」のA(イ)「ボタン付けの仕方」との関連を図っている。

裁縫セットを手にした子どもたちが製作に取り組む最初の題材になることから、一人一人の意欲を大切にしながら意欲的に取り組めるように、「手縫いで、生活が便利で楽しくなるハッピーグッズを作る」という課題を設定し、その解決に向けて「安全」や「快適」「生活文化」の視点から考えていく。小物を作る活動を通して、手縫いの基本的な知識・技能を身に付けるとともに、課題を解決する力を養い、衣生活をよりよくしようと工夫したり、家庭生活を大切にしたりする態度を養うためには、適切な題材と言える。

- 指導にあたっては、次の二点について留意する。

一点目は、学びの見通しを明確にした導入【手立て1「学びの文脈」のデザイン】についてである。題材の導入場面において、過去の作例や使用場面を提示することで、裁縫道具を使って小物を製作すると身の回りが便利で楽しい気分になったり、友達と関わりが深まったりすることに気付かせ、「何のために学習するのか」という目的と学習のゴールである「ハッピーグッズ作り」を確認する。また、作品を見ながら「何ができるようになればよいか」「どのような力を付けたいか」を考える場を設け、「道具の使い方」「縫い方」「製作の手順」などについて課題を解決していけばよいことに気付かせ、ゴールまでの学習の見通しをもたせる。

二点目は、自己の考えを広げ深める話し合い活動【手立て2よりよく学ぶ3つの視点】についてである。自分の作品には愛着がわき、課題となる点に気付きにくくなる。そこで、教師が提示する作例と比較したり、グループで課題や工夫について話し合う場を設けたりして、自分のよさや気付かなかった課題を自覚できるようにする。既習事項や友達の工夫を参考に「なぜそのようにするのか」、自分の思いを形にするために何を取り入れるのか考え、実践できるようにさせていく。

## 2 題材構想図

### 題材の目標 ～B 衣食住の生活（5）生活を豊かにするための布を用いた製作～

- 製作に必要な用具の安全な取り扱い方や手縫いの仕方がわかり、布を用いて製作した物を生活に生かすことができる。

#### 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。</li> <li>・ 手縫いによる目的に応じた縫い方とボタンの付け方及び用具の安全な取り扱いを理解しているとともに、適切にできる。</li> </ul>	<p>ハッピーグッズの製作計画及び製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>家族の一員として、生活をよりよくしようと、ハッピーグッズの製作計画及び製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</p>

#### 復興教育との関連

- **いきる「③夢や希望の大切さ」**  
手縫いの技能を身に付けたり、小物の製作を計画したり修正したりすることに粘り強く取り組むことは、目指す姿に向かうために必要であると気付く。
- **かかわる「①家族のきずな」**  
手縫いを用いた製作活動を行うことで、家族の生活を豊かにすることができることに気付く。

#### 他教科・領域等

- 総合 5年「仁王学区安心防災プロジェクト」**
- ・ 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりして、計画等を評価・改善することができる。
  - ・ 家族や地域とのかかわりを意識しながら、課題解決の方法を選択したり工夫したりすることができる。

#### 教科の学習内容

5年4月  
「家族の仕事再発見」  
A「家族・家庭生活」  
(1) 自分の成長と家族・家庭生活  
ア

**本単元 5年6月**  
**「ソーイングはじめの一步」**  
B「衣食住の生活」  
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画  
(イ) 縫い方、用具の安全な使い方  
(4) 衣服の着用と手入れ  
ア(イ) ボタン付け

5年9月  
「ミシンでソーイング」  
B「衣食住の生活」  
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
ア(ア)(イ)

6年7月  
「生活を豊かにソーイング」  
B「衣食住の生活」  
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
ア(ア)(イ)  
B(5)イ

中学校  
生活を豊かにするものの製作  
B「衣食住の生活」  
ア、イ

#### 他教科・領域等

**図工 1年～4年**  
ハサミや彫刻刀など用具の安全な使い方が分かってできる。

**学校行事【林間学校】 5年 6月～7月**  
・林間学校に行く際に、学級や学年の関わりを深めたり、楽しい雰囲気を作り出したりするために適した活動を考えたり、計画したりすることができる。

#### 見方・考え方を働かせるポイント

- **安全**
  - ・ 裁縫道具を使ったり製作の準備や片付けをしたりする際に、気を付けることは何か、調理の学習と関連付けて考える。
- **快適**
  - ・ 布を用いた製作物の評価・改善を行う際に、丈夫か使いやすいかの視点で考える。
- **生活文化**
  - ・ 布を用いた製作は、生活をよりよくするために、どのように役立つか身近な人とどのようにかかわることができるかという視点で考える。

#### 願い

- ・ 裁縫道具を正しく上手にを使って布を縫えるようになりたい。
- ・ 学習した縫い方を使って小物を作ってみたい。
- ・ 作った小物を家族に見せたい。

#### 教科の力

- 身に付けた知識・技能を活用して、課題を解決しようとする態度が育ってきている。
- 手縫いを含め、布を用いた製作及び製作手順、用具の操作に対して苦手意識と不安をもっている子どももいる。
- 自分の計画や製作物を適切に評価・改善する力が十分とは言えない。

#### 子どもの実態

3 題元の指導及び評価の計画（全10時間） ☆…指導に生かす評価

小題材	時間	○学習活動	◆研究の手立て	評価規準（評価方法）		
				知	思	主
なぜぬうのだから	1	○針と糸でぬうことよきについて考えたり、小物作りの製作計画及び政策等について問題を見いだしたりして、 <b>題材を貫く学習課題「ハッピーグッズ作り」を設定する。</b>	<b>【手立て1】 学びの見通しを明確にした題材の導入</b> ◆学習の見通しをもち、課題を設定するためのモデル提示。 ・林間学校に向けたおそろいのネームタグや生活を便利で楽しくする「ハッピーグッズ」作り		○	思① 小物づくりの製作計画及び製作について問題を見いだして課題を設定している。〈発言・ノート〉
	2・3	○玉結び・玉どめの役割や仕方を理解し、玉結び・玉どめ、名前の縫い取りを身に付ける。 ○なみ縫いや返し縫いの仕方について理解し、身に付ける。	<b>【手立て2】 自己の考えを広げ深める話し合い活動</b> ◆手縫いの知識・技能を身に付け、製作の手順を理解させるために、「なぜ」「どのように」を問いながら師範を行う ◆自分の課題に合った解決方法を選んだり使ったりするための掲示、ICTの活用を行う ◆できるようになったことを言語化したり教え合ったりする場を設定する ◆ネームタグを製作する際に、自分の力や思いに合わせて製作を工夫する活動を取り入れる	○	○	知② 裁縫用具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、適切にできる。〈行動〉 知① 手縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに、適切にできる。〈製作品・行動観察・ノート〉
	4・5	○ボタンのつけ方を理解し、おそろいのネームタグを作る。	<b>【手立て1・2】</b> ◆今まで学習してきたことを活用して、自分の生活をより便利に楽しくする、家族との関わりを深めるなどの視点で計画させる。 ◆交流を行い、手順や大きさについて見直す時間を設ける。	○	○	知③ ボタンのつけ方を理解しているとともに適切にできる〈実習・ノート〉 主① みんなで「おそろいのネームタグ」「小物作り」の製作計画及び製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている〈ノート・発言・行動観察〉
	6	○ハッピーグッズの製作計画を考え、工夫する。 ・製作を進める。	<b>【手立て1・2】</b> ◆今まで学習してきたことを活用して、自分の生活をより便利に楽しくする、家族との関わりを深めるなどの視点で計画させる。 ◆交流を行い、手順や大きさについて見直す時間を設ける。	○	○	知④ 製作に必要な材料や製作手順について理解している。〈製作計画表、発言〉 思② ハッピーグッズの製作計画及び製作について考え、工夫している。〈製作計画表・発言・行動観察〉
	7 本時	○ハッピーグッズの製作計画を見直し、製作する。	<b>【手立て1・2】</b> ◆作例と比較することで作品をよりよくしたいという思いをもたせる。 ◆グループでの話し合いや小物製作の過程を見直す活動を通して、作品に必要な要素を取捨選択しながら、自分の思いに適した解決方法を選ばせるために例示やICTを活用する。		○	思③ 小物づくりについて実践を評価したり、改善したりしている。〈製作計画表・発言・製作品〉
手ぬいを生活に生かそう	7・8	○計画にそってハッピーグッズを製作することができる。	<b>【手立て2】自己の考えを広げ深める話し合い活動</b> ◆製作を進めながら、教え合いができるように学習形態を子どもの願いにそって設定する。	○	○	知①②③ 手縫いによる目的に応じた縫い方を理解しているとともに適切にできる〈製作品〉 主② ハッピーグッズの製作計画及び製作方法について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。〈製作計画表〉
	9	○ハッピーグッズの製作について実践を振り返り、評価し、改善したり発表したりする。 ○題材を振り返って、成長を自覚し、学習をまとめる。	<b>【手立て1】 学びの見通しを明確にした導入</b> ◆製作したものを生活で活用した感想や、学習前の自分、付けて行きたい力、これからの生活や学習について振り返る場の設定		○	思④ 課題解決に向けた一連の活動について考えたことを分かりやすく表現している。〈発言・ノート〉 主③ ハッピーグッズの製作計画及び製作方法について、工夫し、実践しようとしている。〈行動観察・ノート〉

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

- 日常生活で役立つ「ハッピーグッズ」の製作品・製作計画について、計画を評価したり改善したりすることができる。

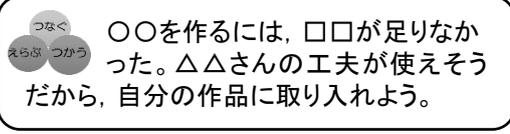
#### 2 評価規準 【思考・判断・表現】

「ハッピーグッズ」の製作計画及び製作品について、作品や製作計画のよさや課題に気づき、必要があれば計画を追加したり修正したりしている。

＜努力を要する状況の児童への手立て＞

教師の試作品を見ながら、縫い目やボタン付けなど、参考にしたい部分について友達に聞いたり資料を見ながら確かめたりさせる。

#### 3 展開 (6/9時間)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て ●予想される子どもの反応	・留意点◇準備物 評価
導入	<b>1 問題把握</b> 教師の提示した作品について話し合う。 ○ 二つは同じ製作計画をもとに作りました。どこが違いますか？  <b>2 課題設定</b> ハッピーグッズ製作計画をよりよいものにするにはどうすればよいのだろう。	2	<b>【手立て1】学びの見通しを明確にした導入</b> ◆ 作例と比較することで作品をよりよくしたいという思いをもたせる。  ● 縫い目の大きさがバラバラだ。 ● ボタンが緩い、ボタンの穴が大きい。 ● 出し入れ口が緩くて使う人が困ると思う。	◇2つの作例 ・不揃いの縫い目強度が不足している作品を見せることで、課題に気付かせる。 ・二つを比較して、よさに気付いた子どもも評価する。
展開	<b>3 共通課題の解決</b> 教師の作例の課題について考え発表する。 ○ どこをどのように直せばよいですか。  <b>4 自己の課題解決</b> 自分の作品と製作計画を見つめ直し、 <b>自分の作りたいものや思いに合わせた活動方法</b> で修正・追加、友達へのアドバイスをを行う。  ※ 活動する際に活用するもの ・ グループ、グループ外での相談 ・ ロイロノートに提出されている友達の計画表 ・ 作例や今までの学習など	8	● 縫い始めと終わりは返し縫いをすると出し入れ口が強くなる。 ● 縫い目をそろえるとききれいに見えるし、物が落ちてこない。 ● ボタンを適した位置に丈夫に付けるとしっかり閉まる。 ● 入れる物より少し大きくしないと入らない。	◇GIGA PC ・ 課題について理由も問う。
展開	<b>5 発表・全体交流</b> ○ 製作計画のどのようなところを追加・修正しましたか？	6	<b>【手立て2】自己の考えを広げ深める話し合い活動</b> ◆グループでの話し合いや小物製作の過程を見直す活動を通して、作品に必要な要素を取捨選択しながら、自分の思いに適した解決方法を選ばせるために例示やICTを活用する。   ● 出し入れ口を強くしたいから、返し縫をすることにしました。(修正) ● ボタンの付け方が間違っていたので直すことにしました。(修正) ● 直すところはないけれど、友達の刺繍がかわいいので、自分も刺繍をすることにしました。(工夫)	・計画表の改善前後の写真を撮らせ、交流に活用させる。 ・計画が出来上がって、改善点が見つからない子どもには、工夫を考えさせたり、友達にアドバイスをしたりさせる。 <b>【思判表】</b> 小物づくりについて実践を評価したり、改善したりしている。〈製作計画表・発言〉 ・交流で気付いたことがあれば随時修正・追加してよいこととする。 ・既習や友達の考えをもとに計画を見直している子どもを見つけて全体に広げる。
終末	<b>8 振り返り</b> ○ 学習前、今日分かったこと・できたこと・次にやってみようこと、の三段落で振り返りをしましょう。	7	<b>【手立て1】学びの見通しを明確にした導入</b> ◆ 本時の学習をもとに、次時は作品を製作したという思いをもたせる。	
<b>【期待する振り返り:例】</b> 前回までは、完璧な製作計画だと思っていたけれど、今日先生の見本や友達の計画表を見て、出し入れ口を返し縫していないことに気付いた。次は、出し入れ口を強くしたり、縫い目の大きさに気を付けたりして作りたい。				

